科目名	災害復興の歴史			ナンバリング	REC231	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	柳澤孝主	担当教員					

授業の概要	本講義は、過去に発生した主な災害を取り上げ、災害が起きた当時の社会状況がどのようなもので、どのような影響がもたらされたか、そして何よりも被災者はどのようにして生活を建て直したのかを考究し、過去の災害から得られた教訓を将来の災害への対応に生かすことを目的とする。併せて日本人の災害観についても言及する。
到達目標	1. 大規模な被害を及ぼす災害が時代によって異なることの理由を説明できる。 2. 巨額の集中投資による災害復興の特色と、「開発復興」か「生活復興」かの議論について説明できる。 3. 東日本大震災からの復興、特に福島県の復興に向けた動きとその困難性について説明できる。 4. 日本人の災害観について説明できる。
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	教科書や参考文献の購読を中心に学修するが、単にテキストの内容を覚えるだけではなく、その内容や当該の問題について自分自身で考察を加えるような読み方をすること。ネット情報は大いに活用することを勧めるが、活用の際には信頼できる情報か否かを十分に検討すること。要は考えながら学修する姿勢を持つようにしてほしい。

ディプローマポリシーとの関連	【教養学部　地域教養学科のディプロマポリシー】
○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル（合格ライン）の目安	理想的な到達レベルの目安
1,近代の災害と近代以前の災害の違いを一般的事項に従って説明できる。 2,福島県の復興に向けた動きとその困難性について概括的に説明できる。	1、災害が時代と場所によって大きく異なることを説明でき、災害復興に伴う諸問題、特に都市復興と生活復興の相克を具体的に説明できる。 2、東日本大震災における岩手県・宮城県と福島県の復興課題の違いについて具体的に考察し、明確に提示できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験（中間・期末試験）							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		50%
宿題・授業外レポート	○	○	○				30%
授業態度・授業への参加			○	○		○	20%

課題、評価のフィードバック	1. リアクション・ペーパーでの質問や意見には、次回の授業の冒頭でコメントする。 2. 授業に関する質問や相談には随時応じる。 3. レポートや試験に関しては学生の要請があればいつでも開示・説明する。

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	古代の災害復興	奈良・平安時代に発生した主な自然災害を概観し、古代においては飢饉と疫病が他の自然災害以上の人的被害をもたらしていたことを確認する。	
	第2回	中世の災害と被災者	鎌倉・室町時代における地震・風水害に加えて特に大火（兵火を含む）・大飢饉の状況とそれに対する人々の対応について解説する。	
	第3回	近世の災害復興①	江戸時代に発生した大地震と火山噴火についてその被害状況と復興への道程、被災の記憶の伝承などを解説する。	
	第4回	近世の災害復興②	江戸時代の三大飢饉と江戸の三大火についてその要因と被害状況並びに復興に向けた被災者や藩・幕府の対応について解説する。	
	第5回	磐梯山噴火	大規模な水蒸気爆発で山体崩壊をした磐梯山噴火の被害状況とその後の復興過程、並びに火山災害の科学的研究の端緒となったことや日本赤十字社が初めて災害医療派遣を行ったことなどを解説する。	
	第6回	濃尾地震、明治三陸地震津波	日本の地震研究の端緒となった濃尾地震と2万人を越す犠牲者を出した明治三陸地震津波の特長について解説する。	
	第7回	関東大震災①	関東大震災の発生メカニズムと被害状況、被害を拡大させた要因、避難の状況などについて解説する。	
	第8回	関東大震災②	帝都復興計画に基づく復興事業の成果、同潤会による住宅供給、社会事業の積極的推進、経済復興対策等、復興への歩みとその功罪について解説する。	
	第9回	伊勢湾台風	災害対策基本法制定のきっかけとなった伊勢湾台風の被害と被害拡大の要因、救助救援活動の様子などを解説し、室戸台風・枕崎台風についても言及する。	
	第10回	阪神淡路大震災①	阪神淡路大震災の発生メカニズムと被害状況、特に内陸型地震における死因の特徴、住民や行政の対応、救助活動の推移など大都市型地震災害の特徴を解説する。	
	第11回	阪神淡路大震災②	インフラの復旧から都市の復興、産業の復興、そして生活復興に至る過程を概観し、復興事業がもたらす問題点を考察する。	
	第12回	有珠山噴火、三宅島噴火	平成12年に発生した2つの噴火災害の概要と避難から復興への過程を解説する。併せて気象庁の火山警報のレベル化について言及する。	
	第13回	中越・中越沖地震	中山間地の土砂災害と集落の孤立化、全村避難、原子力発電所のリスク、風評被害、冬の避難生活と夏の避難生活の課題などについて解説する。	
	第14回	東日本大震災①	東日本大震災・津波の発生メカニズムと被害状況、福島原発事故と避難生活、風評被害等について映像を交えて解説する。	
	第15回	東日本大震災②	岩手県・宮城県・福島県における復興の歩みと諸問題について解説する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		テキストに沿って進めていくが、必要に応じて資料等を加えながら説明することもある。		
授業外学習の指示		事前にテキストの予定箇所をよく読み込むこと。分からない言葉や事象について調べておくこと。 （授業外学習時間： 毎週　60　分）		
教科書		安田政彦 『災害復興の日本史』 吉川弘文館 2013 ISBN978-4-642-05761-5 1,700円＋税		
参考書		北原糸子 『日本災害史』 吉川弘文館 2006 ISBN978-4-642-07968-6 4,200円＋税 浦野正樹他編『復興コミュニティ論入門』 弘文堂 2007 ISBN978-4-335-50102-9		
参考URLなど				
その他				